

誰が一番わしを深く愛してくれるかな？



「リア王、老いてなお執着する男。  
その苦しみ、悲しみ、憎しみは。」

嶽本あゆ美 脚本・演出

# リアの食卓

2015年

1月28日(水)～2月1日(日) ■ 会場 シアターサンモール ■ 料金 5,500円 (全席指定)





## 脚本・演出 嶽本あゆ美

●だけもと あゆみ

メメントC主宰。ADEF表現教育花伝会倶楽部代表。日本劇作家協会会員。

第二十五回文化庁舞台芸術制作奨励賞現代演劇部門佳作受賞。第十二回日本劇作家協会新人戯曲賞受賞など受賞多数。代表作に、演劇集団「円」公演・中上健次「千年の輪楽」より「オリュウノオバ物語」(演出・大橋也寸主演・岸田今日子)、アイバンク啓発ミュージカル「ひびからもらった宝物」、劇団BDP「ハムレット・レポート」、True-colors「昔々、母さんが」メメントC+太平洋食堂を上演する会「太平洋食堂」「南京 Njing」 「ダム」(平成26年度文化庁芸術祭参加作品)

### リアの食卓を囲んで

リア王の悲劇はおこるべくして起きたのではないかな？

シェイクスピアの三大悲劇と謂われる「リア王」ですが、果たしてそれは悲劇なのか？

ある年齢以上になって「リア王」を読み返す時、血で血を洗う権力闘争よりも、人間の老いと家族関係の確執の方が大きな主題に思えて参ります。冒頭で提示される問いかけ、「誰が一番私を深く愛してくれるかな？」というある種の家長の驕りに、老いによる自信喪失と執着、その焦りが最も明確に表わされているのではないのでしょうか。

振り返って現代日本の周り近所を見回すと、定年後に妻に離婚を突きつけられ右往左往する人、奥さんを亡くされたり子供達に見捨てられたり、生き甲斐を無くしてしまう男性が沢山居るのです。これも同じく「リア」の悲劇なのです。歳を重ねていくなかでの家族同士のすれ違いは、やがては三大悲劇レベルの争いを生む最も大きな原因になるのでしょうか。そうなった時、当事者が率直に我が身を振り返り、その原因を反省するのは難しいものです。これは男性に限らず、老いるということが人生最大の難題だからなのでしょう。

この舞台の「リア」には同じく三人の娘がいます。三人娘と言えばチーフホフですが、長女の役割は、時として一族の家長と同じになります。次女、三女にもそれぞれに言い分があるのです。それをじっくり聞きたいとかがね思っておりました。「リア王」は封建時代の家督相続を巡る混乱が発端となっています。家督相続というと時代劇的ですが、今の様に個人の自由が最大限に尊重される時代でも、何かが次の世代に引き継がれる時、個を超えた家の「習わし」というものが、一瞬大きく浮かび上がります。それは戒めるがごとく、当事者に何かを要求するのです。それを見ないふりをするのか？ 鞭の様に家に繋がれるのか？ 後に残される者には大きな決断が委ねられます。そんな理由で、「リア王」というものは、私には三大悲劇と言うより、お茶の間のホーム・ドラマのように見えるわけです。さて、観客の皆様にはどのよう映るのでしょうか？



青砥 洋



湖上 芽映



中沢 千尋



坪田 后加



「バラを摘もう。ジャムにしよう。  
美味しいお茶を！」



古川 美帆



広岡 鈴



中村 翼



漆原 志優



田中 万葉



病院の看護婦

川田 桃子



宿の助手

田中 雅樹



旅館客棧の看護婦

遠田ひな乃

鋭い劇作家、嶽本あゆ美が、  
シェイクスピアの4大悲劇「リア王」を題材に、現代の一般家庭で  
起こり得る問題を抉り出す、衝撃の！  
シリアスコメディ！！

財産分与  
の  
軋轢